

巻 頭 言

別府大学日本語教育研究センター長

松 田 美 香

別府大学日本語教育研究センターは2009年4月に設立され、今年で13年目を迎えます。研究のための『別府大学日本語教育研究』も本号で第12号となります。

令和3（2021）年度も新型コロナウイルス感染防止のため、「日本語教育講演会」を開催しませんでした。それだけでなく、本センターのおもな行事である「スピーチコンテスト」「第2次オリエンテーション」の開催も自粛せざるを得ない状況でした。しかしながら、後期に入り、一時は県内で感染者がほとんど出ない期間があり、10月27日に「後期第2次オリエンテーション」を実施することが出来ました。秋の好天の下、竹田市の岡城などを見学しました。また、オンラインではありましたが、1月18日に「朗読コンテスト」を行うことができましたことを報告いたします。

本学では、昨年度に引き続き、入国できないままの留学生に対し、オンライン（多くはリアルタイム）で日本語科目の授業を行いました。いわゆるハイブリット授業を行ったわけです。最終的に入国できなかった留学生は1名のみでしたが、それでも、先生方の授業負担は大きく、また、遠隔では語学の授業の効果は上がりにくいことがわかり、教師・学生ともに対面授業のありがたさを感じました。

さて、本紀要には4名の先生方からの御寄稿が掲載されることとなりました。このような状況下で研究をお進めになり、本紀要に御寄稿いただけましたことは本当にありがたく嬉しいことです。研究活動を途絶えさせないで済みましたこと、執筆者の皆様にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

感染症だけでなく、世界のあちこちで戦争が絶えません。そのような国では、学生たちが国を追われるようにして、勉学の機会を奪われています。日本への留学中に母国で戦争が始まり、大きな悲しみや疎外感を抱きながら暮らしている留学生もいることと思います。私たちはいかなる留学生に対しても、学びたい気持ちに応え、平和な世界を作るための尽力を惜しんではいけないと思います。

最後に、本号の刊行にあたってさまざまな形で御支援をいただいた方々に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

令和4年3月31日

